

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会 地震P S A分科会
第4回 地震ハザード評価作業会 議事要旨

日時：2004年10月1日（金） 9:40～12:10

場所：(独)原子力安全基盤機構 第13会議室

出席者：（敬称略）

委員 蛭沢〈主査〉、能島〈副主査〉、野田〈幹事〉、安中、石田、入野、
宇賀田、尾之内、香川、小畑、高田、福島、藤原、吉田 14名

代理委員 山田（尾崎） 1名

常時参加者 堤、美原、三明 3名

傍聴者 水谷 1名

事務局 太田

配付資料

P7WG1-4-1 第3回地震ハザード評価作業会 議事要旨（案）

P7WG1-4-2-1 地震ハザード評価手法における重要課題に関するアンケート集約結果

P7WG1-4-2-2 地震ハザード評価手法における重要課題に関するアンケート・コメント一覧

P7WG1-4-2-3 重要課題の取り扱いに関するアンケート

P7WG1-4-3 地震ハザード評価手法に関する目次構成（案1）

P7WG1-4-4 「時刻歴波形の作成」に関する書き分け（案）について

議事要旨：

議事に先立ち、事務局より15名の委員が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事要旨（案）の確認 [P7WG1-4-1]

資料確認に引き続いて前回議事要旨（案）の確認を行い承認された。

2) 標準委員会の活動状況

事務局より、標準委員会の活動状況（発電炉専門部会にて、レベル3 PSA分科会の立ち上げが了承されたこと等）について報告があった。

3) 標準作成の考え方について [参考]

蛭沢主査より、分科会・各作業会の主査ほかで検討した標準作成の考え方について報告があった。

- ・本作業会を含む地震P S A分科会の工程を確認した。
 - ・格納容器に関連するフラジリティ評価や余震については、委員から積極的な紹介があれば着手することとした。
- また、本内容に関連して標準改訂規約の話題があったため、事務局より以下のとおり補足説明があった。
- ・1年に1度、新知見の確認作業を実施することとなっている。
 - ・5年に1度、改訂版を必ず出版することとなっている。

4) 重要課題の取り扱いに関するアンケート結果について [P7WG1-4-2-1～P7WG1-4-2-3]

堤常時参加者より、アンケート集約結果について紹介がなされた。

- ・蛭沢主査より、「標準への記載は不要」との意見が多かった項目について、どのように取り扱うか決めたいとの提案があり、それについて議論がなされた。
- ・その結果、各項目について文案を作成した上で標準にふさわしいか否かを議論することとなった。

5) 地震ハザード評価に関する目次構成について [P7WG1-4-3]

重要課題の議論に合わせて、目次案に関する議論がなされた。

- ・距離減衰式を用いる場合と震源断層モデルを用いる場合には共通の部分が多いので、本文では、両者を分けた構成とせず、震源断層モデルを地震動伝播モデルの一つとして位置づける構成とし、震源断層モデルの要素技術的な内容は附属書あるいは解説に記載することが望ましいとの見解に至った。
- ・目次案では不確定性が6章に記載されているが、地震ハザード評価の前段にあった方がよいのではないかとの意

見があった。また、評価実施者のみならず規制当局が標準を使用することも考えた場合、不確定性要因をRandomnessとUncertaintyのいずれかに明確に分離しておくことが望ましい。ただし、これらの分離は現状での見解に基づいていることを明記し、新たな知見が得られた場合、今後の標準の改訂に反映することが考えられるとの意見があった。

- ・ 3役（主査・副主査・幹事）において目次構成を練り直し、その後執筆担当を決めることになった。

6) 時刻歴波形の作成について [P7WG1-4-4]

三明常時参加者より、建屋・機器 fragility 評価側で時刻歴波形をどのように使用するかについて、fragility 評価手法の違いの観点で整理した内容が紹介された。

7) その他

次回の作業会は10/21(木)午後とし、地震ハザード評価における目次構成・執筆分担等について議論する。

- ・ 次回は標準に掲載できると思われる評価事例を持ち寄ることとした。

以上